

学習ポイント 1

目的・根拠・構成から考える、中学三年の作文

経験を伝える作文でも、意見を述べる作文でも、読み手に何を受け取ってほしいかが出発点です。題材を選び、事実と解釈を分け、根拠が伝わる構成を考えます。お手本は一例です。結論が違って、条件を守り、筋道が通っていれば評価できます。

目標 読み手と目的に応じ、中心となる内容と根拠を選べる。／事実・解釈・意見を区別し、段落の役割と論理のつながりを考えられる。／内容と表現を別々に点検し、伝わり方を改善できる。

1 読み手・目的・中心を決める

作文の目的は、出来事を報告する、経験から得た考えを伝える、提案を検討してもらう、などさまざまです。読み手がすでに知っていることと、説明が必要なことを分け、最も伝えたい内容を一文にします。

例 友人への報告：委員会で何が決まったかを、経緯とともに伝える。

例 委員会への提案：利用しにくい点と改善案を示し、実施を検討してもらう。

2 事実と解釈を分ける

事実は、観察や資料で確かめられる内容です。解釈は、その事実をどう捉えるかです。一度の経験を、いつでも誰にでも当てはまると広げないようにします。資料を使う場合は、出典や調べた時期・対象も確認しましょう。

例 事実：昨日の昼休み、返却場所を探していた生徒を三人見かけた。

例 解釈：案内が見つけにくい可能性がある。

例 未確認：すべての生徒が案内を読めていない、とまでは言えない。

学習ポイント 2

目的・根拠・構成から考える、中学三年の作文

3 中心を支える材料を選ぶ

印象的な出来事でも、中心と関係が薄ければ入れません。主張を支えるには、実際にしたこと、その結果、比較できる点などが役立ちます。結論に都合がよい材料だけでなく、限界や別の見方も確かめましょう。

例 中心：話し合いでは、最初に各自の案を書く時間を設けたい。

例 根拠：発言する前に付箋へ書くと、今回の班では全員の案を一覧にできた。

例 限界：一つの班の経験だけで、すべての班に同じ効果があるとは断定しない。

4 段落ごとの役割を設計する

主張・理由・具体例・まとめなど、各部分の役割を先に決めます。提案なら結論から、経験を通じた変化なら出来事から始める方法があります。段落は話題のまとまりで分け、一段落に関係の薄い論点を詰め込みません。

例 提案の構成：提案→必要な理由→実施方法→期待する変化。

例 経験の構成：課題→取った行動と結果→そこから得た考え。

学習ポイント 3

目的・根拠・構成から考える、中学三年の作文

5 理由の飛躍と一面的な見方を防ぐ

「だから」と書いただけでは、根拠と結論はつながりません。その事実から本当にその結論と言えるかを確認します。異なる立場の心配を取り上げる場合は、相手を否定せず、条件や改善策を示しましょう。

例 飛躍：一度うまくいったので、全員に必ず役立つ。

例 修正：今回の班では役立ったので、別の班でも試して確かめたい。

例 配慮：静かに読みたい人もいるため、交流の時間と場所を限る。

6 内容の推敲から表現の推敲へ

最初に、目的・根拠・順序・結論のつながりを点検します。次に、主語と述語、指示語、重複、文体、誤字を確認します。字数に合わせて削った後も、理由や重要な条件が抜けていないか読み直します。

例 内容の確認：「便利になった」と判断できる具体的な変化は書いてあるか。

例 表現の確認：「それ」は何を指すか。常体と敬体が混ざっていないか。

原稿欄の使い方

字数条件は使用マス数で確認

この教材の「字数」は、横書き原稿欄の使用マス数で数えます。本文だけの文字数とは異なります。題名・氏名は原稿欄の外に書きます。

1行20マス。段落の最初は1マス空けます。改行は次の行へ進み、前の行の余ったマスも数えます。最終段落の末尾より後の空きマスは数えません。

句読点・かぎ括弧は原則1マスです。ただし「。」と直後の閉じかぎ括弧は同じマスに書きます。句読点や閉じ括弧が行頭に来的时候は、前の行の最後のマスに前の文字と一緒に入れます。

開き括弧が行末に来るときは、そのマスを空けて次の行から書きます。その空きマスも数えます。数字は原則として漢数字を使います。

以上はこの教材でそろえた練習用のルールです。学校・入試の原稿用紙や字数計算に別の指示がある場合は、その指示を優先します。

数え方の例 2段落で30マス

	朝	の	校	庭	を	歩	い	た	。											20
	空	気	が	澄	ん	で	い	た	。	30										

1段落目の残り10マスと、各段落の初めの空き1マスも数えます。最後の文の後の空きは数えません。

取り組み方と参考資料

全10問 | 基礎4問・標準3問・応用3問

学習ポイントを確認してから、問題の問1～7で部分練習をし、問8～10でまとめた作文に取り組みます。構成メモ → 本文 → 条件確認 → 書き直しの順に進めましょう。

解答解説の文章は一例です。経験や立場が異なっても、問いと条件に合い、理由や根拠が読み手に伝われば認められます。各問の確認基準は、この教材の学習用の目安です。全国共通の入試採点基準ではありません。

教材の対象は中学3年生です。基礎から高校入試を意識した短い作文まで段階的に練習します。時間配分や段落構成に、すべての作文に共通する唯一の正解はありません。

本文を書く原稿欄は1マス9mm、短い回答や構成メモの罫線は1行10mmです。原寸（100％）で印刷すると、この大きさに使えます。

すべての例文・設問・作文例・資料は、本教材のために作成したオリジナルです。表の数値や調査は架空であり、実在の学校や社会全体の傾向を示すものではありません。特定の入試問題や教科書本文は転載していません。

学習範囲の参考資料

文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編

第3学年「書くこと」（冊子120～123ページ）を学習目標の確認に使用。例文・設問・資料は転載していません。

資料確認日 2026年10月8日。資料名から文部科学省の資料を開けます。